



New Faculty Member

共に学ぶ。新任教員の紹介



生物資源工学研究所
応用微生物学研究室

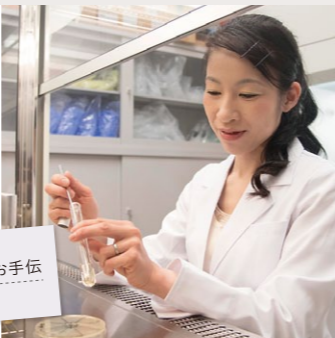
松崎 千秋 助教

乳酸菌の機能性に関する研究

乳酸菌は人の健康を増進させる様々な機能を持っています。乳酸菌の新たな機能性を明らかにし、その仕組みを解明する研究を行っています。マウスのパイエル板細胞や脾臓細胞を用いたスクリーニング系を開発して、新たな機能性乳酸菌を探索したり、その生理活性物質を特定したりしております。機能性食品への応用を目指した研究開発を続けたいと思っております。

出身地/石川県 趣味/ジョギング・着物ファッション
尊敬する人物/人生のパートナー
最近ハマっていること/窓から見える夕焼け

Message for Students
明るく楽しい有意義な学生生活を過ごすお手伝いができたら、と思っております。

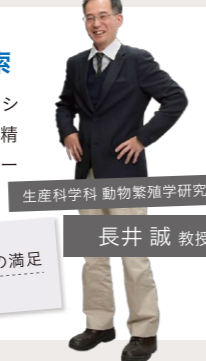


動物の体外受精卵の生産率向上と家畜の未知のウイルスの探索

動物の育種や種の保存を効率的に進めていく上で体外受精は有用な方法です。ウシの体外受精技術は実用化されつつありますが、めん羊や家畜以外の動物では体外受精卵生産はこれから技術開発の必要があり、それに取り組んでいきます。また、次世代シーケンズによる家畜の未知のウイルスハンターも行っております。

出身地/石川県 趣味/山野草栽培
尊敬する人物/人を幸せにできる方々
最近ハマっていること/知らない道を探索すること

Message for Students
ゼロからのスタートで達成できたとき、その満足度は忘れられません。



生産科学科 動物繁殖学研究室

長井 誠 教授



食品科学科 食品生化学研究室

東村 泰希 助教

食品因子を用いた消化器疾患の予防・抑制

消化管は単なる消化・吸収器官に留まらず、ホルモン分泌や免疫応答など、実に多彩な機能を秘めていることが明らかとなりつつあります。これら消化管機能の破綻は大腸がんや炎症性腸疾患など様々な疾患の発症に関与しています。私はこれら消化器疾患を中心に、その発症や進行を生化学的に解析・理解し、食品を用いた予防を提案したいと考えています。

出身地/京都府 趣味/読書
尊敬する人物/これまでにご指導頂いた恩師
最近ハマっていること/おいしい店を探すこと

Message for Students
しっかり遊び、しっかり勉強(研究)しましょう。メリハリのある学生生活を!

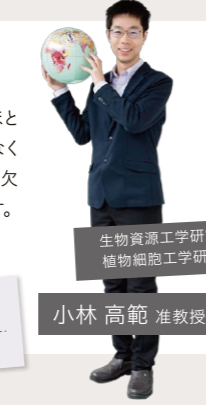


鉄に着目した不良土壌耐性作物の開発

鉄は私たち人間だけでなく、全ての生物にとって必要な栄養素ですが、土の中の鉄はほとんど溶けていないため、植物にとって鉄は吸収しにくい元素です。私は、植物が鉄が足りなくなった時に積極的に鉄を吸収しようとするメカニズムを研究することによって、世界的に鉄欠乏が問題になっている石灰質土壌などの不良土壌でもよく育つ作物の開発を進めています。

出身地/静岡県 趣味/ゴルフ観戦、スキューバダイビング、囲碁
尊敬する人物/西澤直子先生、祖母、北条氏康、孫権
最近ハマっていること/北陸三県のドライブ

Message for Students
石川の素晴らしい自然環境、社会環境を十分に満喫してください。



生物資源工学研究所
植物細胞工学研究室

小林 高範 准教授



最新情報は
ホームページから



石川県立大学広報委員会

〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
Tel 076-227-7220 Fax 076-227-7410
E-mail jim@ishikawa-pu.ac.jp
http://www.ishikawa-pu.ac.jp/



アンケートにお答えいただいた皆様の中から
抽選で「マカロンふせん」3色セットを
5名様にプレゼントいたします。

※アンケートは石川県立大学Webサイトにあるフォームからご回答ください。
締切:7月31日(日) ※当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

今後のよりよい
広報誌づくりのため
皆様のご意見を
お聞かせください

左/上月万由さん
中央/向井里紗さん
右/井上七海さん

きらり 学生サークル
輝く人 「いしるサークル」

魔法の調味料いしるを広めたい!

私たちは、石川県能登地方の伝統的な魚醤油でアミノ酸の宝庫である「いしる」を多くの人に万能調味料として使用してもらいたいという思いで活動しています。そのために、普段の活動では、いしるを使ったレシピを考案しています。そして、学祭やイベントに出店して、考案した料理を販売しています。私たちが考案した料理を食べていただいた方々から「美味しかった」「家でも作りたい」と言っていたときは、やりがいと喜びを感じる瞬間です。

商品化への挑戦

「いしるの炊き込みご飯」はこれまで考案したレシピの中で最も自信のあるレシピで、学祭やイベントでは恒例の人気商品となっています。現在、顧問の榎本教授、小柳准教授をはじめとする多くの方々から協力していただきながらこのレシピのレトルト化に挑戦しています。近い将来、レトルトされた「いしるの炊き込みご飯の素」が商品化され、ヒット商品になることを心から期待しています。

INDEX

きらり輝く人	1
Special Feature	2
海外インターンシッププログラム	2
IPU Close Up	4
IPU Report	4
S&T TALK!	5
CAMPUS LIFE	6
Community Contact	7
Campus Schedule / Club Activities	7
New Faculty Member	8



聞き手：熊谷 英彦 石川県立大学学長

**ベトナムの現地社員に向けた
人事管理に関する提案に挑戦**

学長：昨年9月の海外インターンシップでは、どのようなことに挑戦したのですか。

富澤：2週間にわたって、ベトナムのホーチミンにある三谷産業の系列会社、AXIS社で現地社員向けの人事管理に関するプログラムに参加しました。自分がこれまで触れたことのないことを学ぶことで、自分の可能性を広げたいと思って参加しました。ベトナムにはそれまで行ったことがなかったので、そういった意味での興味もありました。

学長：富澤さんは食品科学専攻ですね。そうすると人事といっても普段の研究ではあまり関連ないだろうけれど、会社に入ると確かにそういう知識も必要になるでしょう。

富澤：最初は人事管理という言葉聞いてもピンときませんでしたが、現地の社員さんにインタビューするなかで、人を管理するシステムの重要性を感じることができました。

学長：具体的にはどのようなことをしてきたのですか。

富澤：このインターンシップは、AXIS社、ACSC社、AIT社といったベトナムのオレオウグループの社員さんが、もっと働きやすくなるような社内制度を提案することがプログラムのテーマでした。私のほかに

県内の大学の学生が3名参加し、合計4名の学生でグループ活動をしました。まず、3社で働く管理職の方にインタビューをして仕事の中で感じる不満や利害について聞き取り調査をしました。それから管理職以外の社員の方々にもアンケートに回答していただき、いろいろな声を集め、集めた情報を基に提案を作り、発表を行いました。

最初の1週間は情報がたくさん集まり、得られた情報を整理して、提案にまとめていったのですが、私たち日本人の感覚で提案を作ってしまったところがあったので、果たしてベトナムの社員の方々はそれを見て喜ぶのだろうかや疑問に思い、一度やり直しをしました。

週末は、ホーチミン工科大学の学生と一緒にフィールドワークをしました。現地の学生さんとは英語での会話だったのですが、なかには日本語を学んでいる方もいて、片言でも日本語でコミュニケーションすることがありました。ベトナムの学生さんとも友達になり、SNSを通じて今も繋がっています。

**インターンシップを通して自分の
苦手なことや課題も発見する**

学長：自分たちで問題を整理して提案した結果、感触はどうでしたか。

富澤：社員のみなさんが笑顔で喜んでくださり、嬉しかったです。本当は女性の働き

やすい環境についても提案したかったのですが、どうしても時間の関係で実現できませんでした。集めた情報の量が足りず、後悔があります。

学長：それでもいい経験をしましたね。インターンシップに参加したことで、自分の成長を感じましたか？

富澤：就職活動を始める前に私自身の課題がいくつも見つかって良かったと思います。インタビューして得られた情報は、自分できちんと整理しないと次の提案に活かすことができません。集めた情報をどのように整理していくかという情報整理力が必要だと感じました。それは、日頃の実験や学生生活においても活かされると思います。

**さまざまな食べ物で異文化に触れ
東南アジアに進出する企業に注目**

学長：特に印象に残っていることは何ですか。僕は、ベトナムに1度だけ行ったことがありますが、最も印象に残っているのは街を走り抜けるバイク。バックの群れのごとく2人乗り、3人乗りの群れが走って行く様子が印象に残っています。

富澤：私は、雨期だったのでスクールが印象に残っています。夕方、突然曇って一気に雨になって、驚きました。

学長：そんなふうには日本では経験できないことが経験できて良かったですね。食べ物も美味しかったですよ。

富澤：初日の夕食に、AXIS社の社員さんがベトナム料理のお店に連れて行ってくださいました。その時にいただいたプリンがとても美味しかったです。もちろん、フォーなども美味しかったですし、フランス植民地だったころの食文化が影響している食べ物もあり、フランスパンに香草やハム、野菜などを挟んだバインミーというサンドイッチもとても美味しかったです。

学長：インターンシップでの成果を活かして、就職ではどういった分野を希望しますか。

富澤：食品科学を勉強してきたので、食品関係の会社に注目しています。といっても、日本の人口の減少と高齢化で、これから先は胃袋の数も食べられる量も減っていきます。ですので、今は東南アジアに進出している食品企業に注目するようにしています。そういう意味では、インターンシップでの経験も就職活動において大いに参考になりました。自分が苦手とすることもこのプログラムでよくわかりましたし、就職活動が始まる前に自分で意識することができ、収穫が大きかったと思います。研究室の後輩たちにもぜひ、海外インターンシップに挑戦してほしいですね。



富澤 真美さん 石川県立大学 博士前期課程 食品科学専攻 修士2年



海外インターンシップにおける富澤さんの様子

多田 武俊さん(石川県庁(前)企画課)

富澤さんは、現地での活動において、他の学生の先頭に立って、いろいろなものに興味を持ち、吸収しようとしていました。ベトナムに降り立ち、人やまちの熱気に圧倒されそうになる中、富澤さんの表情は、これから体験する出来事に対するワクワク感に満ちているようでした。そんな富澤さんの姿に皆も良い影響を受け、プログラムを最後までチーム一丸となって乗り越えることができたのだと思います。思い返せば、文化や言葉など環境の変化を楽しむ余裕こそが富澤さんの強みだったと感じます。



**グローバル人材を育成する
海外インターンシッププログラム**

石川県と金沢大学、大学コンソーシアム石川が連携し、大学間連携共同教育推進事業の一環として昨年9月にタイとベトナムで実施された海外インターンシッププログラム。

経済成長が著しい東南アジアでのプログラムに参加した生物資源環境学研究科食品科学専攻の富澤真美さんに、熊谷学長が研修の成果と現地での体験についてインタビューしました。



イネは日本だけでなく、世界でも非常に重要な作物(栽培植物)の1つです。コメは人口増加の著しいアジア諸国の主食であり、今後ますますその生産の向上が求められています。日本では外国産の低価格なコメとの競争力を持つために、より高品質で低コスト栽培のできるイネが求められています。イネでは10年以上前に全ゲノム情報が解読され、その情報を利用した育種(作物改良)が進められています。そのため遺伝子を操作して自由自在に改良が行えると思われるかもしれませんが、しかしそれは目的とする改良のためにどの遺伝子を導入すればよいかわかっていない場合に限られます。収量や品質を高めるためにイネが持つべき特性がわからないと作物改良は行えません。目的とする改良に必要な作物の特性や遺伝子の解明を行うのが作物学です。これまでにイネの収量を増やす多くの特性とその遺伝子が解明され、育種に利用されてきました。ただしそれらは多くの肥料(窒素)を与えることを前提としており、貧しい農家では恩恵にあずかれないこと、肥料のやりすぎで川や海の水が汚染されることなどの問題が多く指摘されています。

作物生産学研究室ではイネ体内の窒素の分配に関する研究を進めています。コメが実るとき、窒素が葉からコメに急速に移行すると葉は枯れます。コメにあまり窒素が集積せずより多くの窒素が保持されれば、葉は枯れずに光合成することができ、少ない窒素肥料で多くの収量をとることができます。各器官への窒素分配のメカニズムを明らかに

し、窒素をよりうまく使う作物改良につなげることで、そこでできなかったことを生かして環境に負荷をかけない栽培技術の確立をめざしています。イネ栽培に関する課題は収量性だけではなく、近年問題となっている地球温暖化は農作物生産にも影響し、イネも例外ではありません。夏の高温によりコメへのデンプン集積が阻害され、品質が低下します。暑さに負けないイネを作ることが当研究室のもう1つの大きなテーマです。



遺伝子解析の指導の様子



暑さに負けないイネの評価

Close Up 1

作物の特性を 解き明かし、持続的な 生産に役立てる

生産科学科 植物生産系
作物生産学研究室
塚口 直史 准教授

Close Up 2
**アカテガニからの
バイオマス分解細菌の
探求**
生物資源工学研究所
環境生物工学研究室
三宅 克英 教授

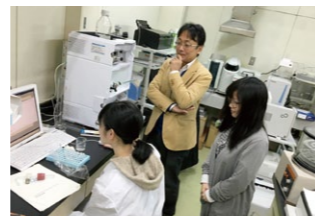
海に直接面した森林は海岸林と呼ばれています。これらの森林と周辺の海域は多くの生物を育てており、豊かな生態系を形成しています。森林内には陸ガニの一種アカテガニの生息がよく観察されますし、森林が接する海域でも様々な魚たちが生きています。これらの生物は、豊かな海岸森林の恩恵を受けて、恵まれた環境で生活しています。昔から漁業に従事する人たちの間では、海岸林が魚を引きつけるという言い伝えもあり、こうした森林は魚つき林とも呼ばれてきました。森と海の間では物質循環があり、これが豊かな生態系を作っているのです。アカテガニは、この大きな物質循環の流れの中で重要な役割を果たしていると考えられています。森林地表面に積もった落ち葉や朽ちた木片を食料としており、成長した後は幼生を海に放出するなどして物質の流れに積極的に貢献しています。このようにアカテガニは森林バイオマスを分解し、その循環サイクルに参加しているわけです。

環境生物工学研究室では、アカテガニのバイオマスを分解する力に

注目して研究を進めています。うまく利用できれば、バイオマスエネルギーの開発などに役立てることもできます。これまでの研究で、アカテガニの消化管には、かなり強いバイオマス分解活性、特にリグニンに対する活性が備わっていることがわかってきました。この活性は消化管に存在する細菌に依存しています。バイオマスは主にセルロースとリグニンから成っていますが、有効成分であるセルロースの回収には難分解性のリグニンの除去が不可欠です。リグニンの除去は難しく、現状は環境負荷やコストのかかる物理化学的方法で処理されています。生物学的処理法としては白色腐朽菌が注目されていますが、アカテガニの活性はこのキノコ類を凌駕する程です。今後はこの強い活性の源となっている分解細菌を単離、培養し、生物工学的に応用していく予定です。



アカテガニ由来細菌のコロニー



分析解析を指導している様子

FD研修「シアターリング・講義力向上プログラム」を開催しました

現在、大学の社会的意義が大きく変化しつつあるなかで、大学教員の講義力の向上が求められています。そこで、音楽座ミュージカルの俳優をトレーナーとしてお迎えして、「場をつくる力」を養う目的のシアターリングというFD研修を実施しました。研修では、実際に声を出したり身体を動かしたりする体感型ワークショップ形式により、相手とコミュニケーションするための意識の持ちかたを修得することができました。本学教員の授業改善のため、これからもユニークで有意義なFD研修を企画してまいります。

ファカルティ ディベロップメント (Faculty Development: FD) とは、大学教員が講義の内容や教育方法の改善を目指し、大学の授業改革を行うための組織的な取り組みを指します。

IPU Report



トレーナーから講義の秘訣を学ぶ本学教員



体験型ワークショップで殻を破る

S×T TALK!

Students Teachers



Theme 農業実習、実際どうだった?

Students
農場実習を履修した皆さん

Teachers
附属農場長 村上賢治 教授

2年次の「農場実習」は、実際のフィールドでさまざまな作業を通してイネや野菜、果樹、動物に触れ、管理の仕方を体験する授業です。農場実習を体験した皆さんに、実習で気付いたことや学んだことを語り合ってもらいました。

村上 / 2年の農場実習を体験してどうでしたか? 前期は田植え、イネの生育の途中まで、トマトやタマネギの収穫、家畜について学びましたね。後期は、梨やリンゴの収穫がありました。

星野 / 後期は、収穫したものを貰えるのに、前期は植えるだけで何も貰えなかったですね(笑)

原 / 果樹で苦労しました。花粉と匂いがすごくて辛かった(笑)

和田 / ジベレリン処理をたくさんしました。1年の時は座学がほとんどだったので、農場実習は楽しかった。座学では理解できなかったこともよくわかりました。

田中 / 私は大阪出身で、周りに田んぼや畑がない環境で育ち、スーパーで並んでいる野菜しか見たことがなかったんです。実習では作物を育てる過程を学び、初めて知ることばかりで勉強になりました。自分の手で田植えをしたり、田植機に乗ったりするのも楽しかったです。

村上 / 主食である米が作られる過程を知ることは、大事ですね。

和田 / 僕は能登出身なんですけど、実家の方で祖父母が畑をしていたので、畝づくりでは先生に褒めていただきました。

原 / 手植えと機械の両方で田植えをして、やっぱり機械作業は農業の生産性においてすごく大事だと実感しました。

田中 / ジャガイモの収穫をした時に、ちゃんと食べられる物と腐ってしまった物があったので、腐った原因がわかったら、と思いました。作物を育てるやり方よりも、病気に強い作物を作る研究がしたいです。

村上 / 病気や害虫があるとどうやっても作物はうまく育たない。その問題は大きいですね。

田中 / どれだけ農家さんが頑張っても限界がありますよね。育てる前から問題を解決していけたらいい。初めて農作業をして、自分で考えることがすごく多かったです。

村上 / 作業がきつかったというのも農業の一つの側面ですし、体験したことは勉強になります。実習を通して興味が出てきたことは?

和田 / 入学当初は、能登の実家で牛を飼っていたこともあり、畜産や国内産飼料の研究に興味がありました。でも、実習を通して栽培にも興味を持ちました。

原 / 僕は農作物の中では野菜に興味があり、実習はきつかったけれど、もっと興味が強くなりました。

星野 / 僕は、これからトマトの栽培方法の研究をします。トマトをもっと美味しく食べられるようにする研究です。そういえば、実習で使ったあの赤いのって…?

村上 / ホルモン処理ですね。温室だとなかなかしっかり実ってくれない。虫がいらないから受粉もうまくできないし、温度が低かったり高かったりして、果実がうまくつかないんです。それで、薬剤で花にホルモン処理を施して果実を实らせる。赤いのはホルモン処理したかどうかの目印として着色していたんです。花の部分だけにつける、気を遣う作業でしたね。トマトは放っておくと広がる作物なので、芽かき(※)も大事な作業です。

和田 / ハウスの中で片側だけに実がなるようにしていました。ああいうのも面白いなあ。

村上 / トマトは果実がつく方向が一定なので、植える時に気をつけて収穫しやすい向きにする。

田中 / 果樹園では最初、葉っぱを見ただけでは何の果樹なのかわかりませんでした。だんだんわかるようになり、果物がもっと好きになりました。それから、挿し木や接ぎ木の作業も体験して、やはりうまく挿せたものしか育たなかったの、誰でも簡単にできるような方法があればいいと思いました。

村上 / 挿し木や接ぎ木については、いろんな効率の良い方法も考案されていますが、やはりある程度の熟練が必要ですね。

和田 / ジベレリン処理にしても一つひとつの実に袋をかける手間がすごい。スーパーでアルバイトしていますが、青果だと傷が少し入っただけで廃棄されてしまいます。

田中 / 私もスーパーでレジのアルバイトをしていますが、お客さんもちょっと汚れているだけで「これ替えてきていい?」と言います。味は全然変わらないのに。このような方たちにも農場実習を体験してもらいたいくらいです(笑)。星野先輩は、果樹に興味があるのかと思っていたんですが、野菜の研究にしましたね。

星野 / 果樹はすごく好きで本当は栽培をしてみたかったけれど、研究室では遺伝子の解析が多くなるので、トマトの栽培方法を研究しようと思いました。とにかくトマトが好きなので、実際に美味しいトマトを自分で育ててみたかったです。農場実習で育てたトマトは、すごく美味しく感動しました。普通のトマトなのになぜこんなに美味しいのだろうと。

村上 / 自分たちが育てたトマトの味は格別ですね。

星野 / 僕は品種改良ではなく、今あるトマトの栽培方法の研究で、もっと美味しいトマトを作りたいです。

原 / 私もトマトが好きでもっと糖度が高いトマトを作りたいと思っています。お店で売っているトマトは糖度が5程度ですが、一部のトマトは糖度が10ほどで果物並に甘いです。いろいろな栽培方法を研究したいです。

和田 / 地元では牛舎を持っていた人もどんどん辞めて、牛舎がボロボロになっています。地元ですごくきれいに手入れされた畑も、今は草だらけになってしまっています。そういうことに少しでも役立てたらと思います。

田中 / 私はもともと遺伝子系の研究をするためにこの大学に来ました。でも、日本の農業が衰退していくことも何とかしたい。若い人たちでも農業がやりやすくなるような研究ができたらと思います。農業そのものも作物を育てる根本的なことも学びながら、新しい研究や開発にも関わっていきたい。

和田 / 普段、自分が当たり前のように食べていたものがここまで手をかけないとできないということがわかって良かったです。どのようにしても作物を作り、農業を続けていかなければならないと思いました。

(※) unnecessary 芽を
取り除くこと。

左から 原 耕平さん
和田 拓巳さん
村上 賢治教授
星野 裕史さん
田中 菜由子さん





CAMPUS LIFE

農学を通して、とっておきの青春時代を楽しもう。
石川県立大学には、豊かな学生生活を叶える
いろんなイベントがいっぱい!



本学学生が「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」に採用されました!!

官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム 地域人材コース」に、本学の青山真也さん(博士前期課程環境科学専攻修士2年)と金頼さん(食品科学科2年)の2名が採用され、本年4月からカナダに留学することになりました。

青山さんは、セントメアリーズ大学で4ヶ月間、屋上緑化に適した土壌種や植物種の組み合わせを調査します(「断熱性・保水性に効果的な屋上緑化の考察のための留学計画」)。金さんは、同大学で1年間、屋上緑化に適した在来種の研究を行います(「石川の屋上緑化を推進するための留学計画」)。

本学の学生がこのプログラムに採用されるのは初めてのことであり、今後、留学を希望する学生が彼らに続いて旅立っていくことが期待されます。



知事表敬訪問の様子



壮行会の様子



平成27年度卒業式を挙りました

春の陽光が眩しく感じられた春分の日、3月21日(月)に第8回目となる卒業式・学位授与式を体育館で挙りました。

卒業生126名、大学院博士前期(修士)課程・博士後期(博士)課程修了生計11名に卒業証書・学位記(学士・修士・博士)が授与されました。

その後、学長から「自然をたたえ、生物をいつくしむ心を基本として、自己を磨き、人に尽くすことで自己研鑽に励んで欲しい。」との式辞がありました。



田植え

5月6日(金)、本学の実験農場で新入生全員の田植え体験が実施されました。これは、「食」そして「いのち」を支える「農」を学ぶ第一歩として、田植えをぜひ経験してほしいという大学教職員の思いから、一昨年から企画されたものです。1年生140名が参加し、32.9aの水田に学長や教職員と共に、コシヒカリの苗を植えました。最初は泥に足を取られてなかなか前に進めなかった学生たちも、少しずつ田植えに慣れていきました。また共通の体験を通して学生同士や教員との親睦も深まり、会話ははずんで笑顔が輝いていました。秋には収穫のイベントが開催される予定です。



平成28年度新入生オリエンテーション

平成28年4月6・7日に新入生のオリエンテーションが実施されました。1日目は、学科ごとに先輩学生サポーターのリードのもとアイスブレイキング活動を楽しみました。その後、小グループでキャンパスツアーを行い、キャンパスのあちこちで学内のいろいろなスタッフや先輩学生と笑顔で交流する姿が見られました。2日目は履修ガイダンス、大学生活オリエンテーションが行われました。昼休みには先輩学生や教員スタッフによる「履修相談コーナー」にたくさんの1年生が相談に訪れていました。初めは非常に緊張した雰囲気でしたが、オリエンテーション終了後にはたくさんの友人や先輩と話すりリラックスした様子が見られ、充実した2日間となりました。



キャンパスツアーの様子



平成28年度入学式を挙りました

4月5日午前10時から本学体育館において138名の学部新入生、7名の3年次編入生と大学院博士前期(修士)課程・後期(博士)課程計17名を迎え、本学12回目の入学式を行いました。式では新入生の一人ひとりの氏名を読み上げた後、熊谷英彦学長が入学を許可。学部生からは環境科学科・山崎実結さん、大学院生からは食品科学専攻・金澤直子さんが、新入生を代表して「大学の教育方針をよく理解し学業に励む」旨を宣誓しました。



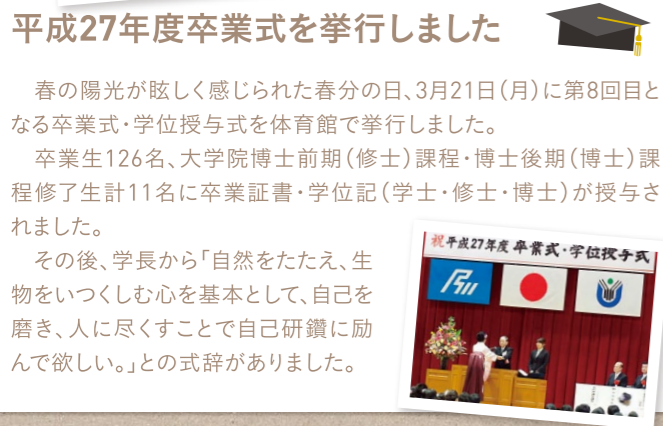
中国・江南大学の学生が本学を見学しました

2月5日、友好協定校である中国江蘇省の江南大学の学生8名が来学しました。来学した学生たちは江南大学で日本語を学んでおり、石川県日本語・日本文化研修参加のため来日しました。石川県立大学では、本学学生の案内による学内の主要施設の見学と歓談を通しての交流を深めました。交流会では、日本のアニメの話題など学生ならではの会話で盛り上がり、一緒に写真をとったり連絡先を交換したりし、今後の交流を誓い合っていました。江南大学の学生たちには、滞在を通して石川県の文化や伝統にも触れ、多くのことを学んでほしいと思います。



本学学生から研究内容の説明を受ける江南大学の学生

共通の話題で盛り上がる学生たち



石川県立大学環境科学科が「石川の自然まるかじり」を出版しました

2016年3月20日に、「石川の自然まるかじり」(石川県立大学自然まるかじり編集委員会編、定価1,800円+税)が東海大学出版部から出版されました。この本は、環境科学科の教員と学生・大学院生が一丸となって作成した「環境科学」へのいざないの書です。大学への進学を目指す高校生や一般の皆様にも、あふれんばかりの「石川の特別」を4つの切り口(「天からのめぐみ」、「生ものたち」、「水をいかす」、「食とくらし」)でお伝えします。この本をお読みいただくことにより、石川の豊かな自然に触れ、その素晴らしさを感じ、環境科学の楽しさを味わっていただけかと思えます。また、石川県内の環境関連施設のリストも記載されております。本書は全国書店で入手可能です。



本校学生がデザイン!!

本紙イラストデザイン 中川 恵さん(平成27年度卒業)



Club Activities 今回の表紙の顔はこの人たち+いしるサークル

2010年から活動をはじめ、現在は約20名が所属しています。1人でも多くの人にいしるを万能調味料として使用して欲しいという思いで様々な活動を行っています。

活動日:毎週火曜日(B104) 主な活動場所:食品科学科 学生実験室
主な活動内容:いしるを使ったレシピ作り、イベントへの出店。



Campus Schedule

キャンパス スケジュール

6月 June

季節ごとに部・サークルの色々なイベントが開催されています。

7月 July

・前期試験
・大学院(推薦)入学試験

8月 August

・夏季休業 / オープンキャンパス

9月 September

・3年次編入学試験
・大学院入学試験

10月 October

・後期授業開始
・響緑祭

11月 November

・推薦入学試験

Community Contact

本大学は、地域社会の発展に貢献しています。

「手取川濁水現象に関する石川県立大学の取り組み」を開催



手取川上流の地すべり

3月10日(木)、白山市民交流センターで、シンポジウム「手取川濁水現象に関する石川県立大学の取り組み」を開催しました。手取川上流域で昨年発生した山腹斜面崩壊による手取川の濁水現象をテーマにした研究成果の中間報告です。本シンポジウムは、石川県立大学が関係機関と連携を図りながら、濁水現象がもたらす影響を継続的に監視し、手取川の流域環境に関する情報を地域住民の方々に向けて広く発信することを目的としています。環境科学科の5教員による報告は、上流域から下流域へと土砂が流れる方向に沿ってリレー形式で行われ、濁水が手取川の流域環境に与える影響を検証しました。

シンポジウムの様子



総合討論では会場から、今後予想される斜面崩落の可能性、行政機関との連携強化の必要性、濁水に対する対処法等、多岐にわたる質疑応答に加え、大学の取り組みに対する要望と期待が寄せられました。

施設見学について

石川県立大学では、一般の団体の方を対象に施設見学を行っております。平成27年度は以下のような実績がありました。

大学概要説明と構内見学及び学食ランチ等

鹿島路町会女性部、犀川公民館 犀寿会 千里浜公民館、野々市市連合町内会理事 珠洲市婦人団体協議会 野々市市市政バス 放送大学

図書館見学の様子



その他に下記のような研修講座も行いました。

「家庭菜園と植物病害 農薬・無農薬」と題して講義を行う生産科学科 高原准教授(野々市寿大学校)



実験実習「リアルタイムPCRが明らかにするものとは」において指導する食品科学科 海老原准教授(高校理科教員)

附属農場内のハウス・畜舎・果樹園の見学及び収穫体験等

野々市農協みのりグループ 金山町農業委員会(福島県) 野々市市内 保育園 野々市市内小学校放課後子ども教室 野々市市内小学校

食と安全と残留農薬に関する講義のあと、最新研究機器の説明をする食品科学科 小西教授(かほく市生活学校連絡会)

